

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成30年2月26日
第842号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1
Tel : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) Fax : 4117
<http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail : skotoba@sado.ed.jp



『好きだなあ』『いいなあ』と伝えたときの子どもの表情が可愛らしいです。うれしそうにする子、はにかんだようにする子、何事もなかったようにする子。愛情を伝えるのは言葉だけではないですが言葉でも伝えていきたいです。

笑顔の循環

子ども若者相談センター

田村 京子

「自分が元気に！家族や仲間が元気に！地域が元気に」これは佐渡市の健康づくり計画「健幸21」での合言葉です。

まずは自分自身が元気になり、家族や仲間へ元気のおすそわけをして、地域全体に元気が広がっていくことを目指しているものです。

子ども若者相談センターでは、お母さんやお父さんが相談に来てくれたり、電話で話を聞かせてもらったりすることがあります。誰にも言えずに悩んでいたけれど、話をすることで心が軽くなったり、不安に思っていたことが安心に変わると、ほっとして笑顔になってきます。

「家に帰ったら、あの子の好きなご飯つくろうかな」「お兄ちゃんだからって我慢ばかりさせてたな」など、お子さんを思う温かな言葉が笑顔と一緒にでてきます。

状況はすぐには変わりませんが、大人自身が安心できると子どもにも優しくなれる。子どもも安心できる。そんな優しい気持ち持ちは少しずつ広がっていったらいいなと思っています。



役割があってこそ「居場所」

今年度も様々な研修会において、講師の先生方の貴重な話を伺うことができました。そこで、共通して話をされていたことは、「クラスに自分の役割があり、周りから認めってもらうことで、自己有用感が生まれる」ということです。金井小学校のあるクラスの授業を参観させてもらったときの担任の対応です。授業中にAさんが席を離れようとするところを見計らって、「Aさん、ここ（教卓）に座って、みんなのプリントの丸付けをしてよ。」と声をかけました。そう言われると、Aさんは笑顔で席に着き、クラスの友達が持ってくるプリントを誇らしげに丸付けしていました。周りから必要とされることで自信をもち、役割を果たすことが本当の「居場所」なのだと思います。居場所づくりの第一歩は大人が子どもの良さやできることを見付け、それを集団の中で生かすことができるよう働きかけることです。ただ「居る」だけではない、自己有用感を高められるような「居場所づくり」をしたいと強く感じました。（椿）



特別支援教育について思うこと⑤

伝統文化と環境福祉の専門学校
講師 山川 辰也

文科省は就学相談について次のように述べています。「教育支援委員会（就学指導委員会）は、各専門家の意見を聴取することに加え、本人・保護者の意向を聴取することが必要だ。特に障害者基本法の改正により、**本人・保護者の意向を可能な限り尊重すること**が求められる。（中略）自分の子どもを学校、教育委員会、地域が受け入れてくれるという姿勢が見られなければ、保護者は心を開かない。学校や教育委員会が、**保護者の伴走者として親身になって相談相手となること**が重要だ。」

もしも、学校や教育委員会が「この子は〇〇特別支援学校（特別支援学級）に行くべきだ。」と結論ありきの姿勢で、上から目線の保護者面談をしていたとしたら、それは「本人・保護者の意向」「伴走者としての親身な相談」の姿勢ではありません。

学校の都合で、子どもの人生を変えるようなことがあってはいけません。あくまでも、子どもの最善を第一にした就学相談・支援を大切にしていきたいものです。

お知らせコーナー



第2回判定委員会が行われました

1月29日（月）に、金井小学校会議室で第2回判定委員会が行われました。

今回は、58名の終了と22名の入級が判定されました。その結果、来年度の指導予定者数が、227名となりました。

委員の皆様、お忙しい中、大変ありがとうございました。



終了者懇話会の御案内

佐渡ことば・こころの教室の終了者懇話会を下記のとおり行います。終了される皆様、学年末でお忙しいとは思いますが、ぜひ出席をお願いいたします。

- ◆日時 3月19日（月）
- ◆会場 金井小学校
- ◆内容 終了式・懇話会

